

ポーランド政治・経済・社会情勢

(2017年9月14日～2017年9月20日)

平成 29 年(2017 年)9 月 22 日

H	E	A	D	L	I	N	E	S
<p>政治</p> <p>司法制度改革に関する世論調査 外務次官の交代 憲法改正をめぐる国民投票に関する協議 ユンカー欧州委員会委員長による2017年一般教書演説に対するヴァシチコフスキ外相発言 ブワシュチャク内務・行政大臣, EU内務大臣会合出席 国防省, 米国機甲旅団の第2次隊がポーランドに到着と発表 輸送中に米軍装備, 盗難 マチェレヴィチ国防大臣, フランスとの防衛協力について発言 マチェレヴィチ国防大臣等のザーパド演習に関する発言 ポーランド・独首脳会談 国防予算案等が下院を通過 スラフスキ参謀総長, NATO参謀総長会議に参加 ヴァシチコフスキ外相, 民主主義共同体閣僚級会合出席 ロシア輸送機, リトアニア領空を侵犯 第二次大戦時の賠償請求権に関する独外相発言及びカチンスキ「法と正義」(PiS)党首の反応 ロシア戦闘ヘリ, 訓練中に誤射し, 民間人重傷 ポーランド・エストニア首相会談 ヴォイチホフスキ作戦司令官, イラク訪問 ドゥダ大統領の国連総会での演説 ポーランド・ウクライナ首脳会合 ポーランド・リトアニア首脳会談 欧州投資銀行の難民問題に係る支援策への資金供与と表明 輸送中の米軍車両, 損傷 シドゥウォ首相, ブルガリア訪問 マチェレヴィチ国防大臣, 米国防長官と会談</p>								<p>【お願い】3か月以上滞在される場合、「在留届を大使館に提出してください。大規模な事故・災害等が発生した場合、所在確認・救援の根拠となります！ 問合せ先 大使館領事部 電話 22 86 5005 Fax 5006 各種証明書, 在外投票, 旅券, 戸籍, 国籍関係の届出についてもどうぞ。」</p>
<p>治安等</p> <p>ポーランド政府警護局職員の制服及び本部アクセスカード鍵の盗難事案 2017年1月から8月までの交通安全関連統計 国境警備隊, バングラデシュ等からの不法移民を拘束 国境警備隊, ウクライナ国境警備隊との関係強化を確認 国境警備隊, パキスタン人不法移民を拘束 急増するアジア系外国人労働者に対するポーランド人の意識 国境警備隊マケドニア派遣隊が帰国 正当防衛権の適応範囲拡大に関する法改正案</p>								
<p>経済</p> <p>中央空港建設予定地の発表 EU, ポーランドの鉄道網整備に9, 750万ユーロを投資 ポーランド初のハイブリッド式鉄道車両の製造に合意 EU基金等を活用した国内投資の状況 8月の鉱工業生産, 8. 8%増加 ポーランド, 財政黒字を維持 家計収支の年平均額が増加 モラヴィエツキ副首相, ポーランドが中所得国の罅に陥る危険性について発言 ガスシステム, ポーランド南部のガスパイプラインを拡張</p>								

<p>チフジェフスキ・エネルギー大臣, 原子力の必要性に言及 ピオトロフスキ・エネルギー省次官, 原発建設に関しIAEA総会で発言 チフジェフスキ・エネルギー大臣, 原子力発電所の技術審査入札時期について言及</p>	
<p>大使館からのお知らせ 長期滞在を目的にシェンゲン協定域内国に渡航する際の注意 旅券(パスポート)の管理及び携行義務に関する注意喚起 欧州でのテロ等に対する注意喚起 「たびレジ」への登録のお願い パスポートダウンロード申請書の御案内 大使館広報文化センター開館時間 文化行事・大使館関連行事</p>	
<p>ポーランド日本国大使館 ul.Szwolczerow 8, 00-464 Warszawa Tel:+48 22 696 5000 http://www.pl.emb-japan.go.jp</p>	

政 治

内 政

司法制度改革に関する世論調査【14日】

ジェニク・ガゼタ・プラブナ紙の実施した司法制度改革に関する世論調査によると、政府による最高裁判所裁判官の人事への影響力行使に反対との意見が最も多く、回答者の36%であった。また、ドゥダ大統領が最高裁判所改正法及び全国裁判所評議会(KRS)改正法の修正案を提出することに対し、約半数が賛成と回答した。

外務次官の交代【15日】

15日、シュチェンフ外務次官(法務・条約担当)が解任され、新たにチャプトヴィチ外務次官が就任した。

チャプトヴィチ新次官は、2006年から2008年まで外務省戦略・外交政策企画部長、2008年から2012年まで全国公共行政学校長を務め、本年1月より外務省研修所長に就任していた。

憲法改正をめぐる国民投票に関する協議【19日】

19日、大統領府は、第1回目の憲法改正をめぐる国民投票に関する協議をポーランドの南部のジェシユフ市で開催した。しかしながら、同時時間帯にポドカルパツキエ県で「法と正義」(PiS)の地域評議会が開催されたため、PiS議員の参加は限定的であった。

外交・安全保障

ユンカー欧州委員会委員長による2017年一般教書演説に対するヴァシチコフスキ外相発言【14日】

13日、ユンカー欧州委員会委員長は、欧州議会(ストラスブール)において2017年の一般教書(State of Union(SOTEU))演説を行った。それに対し、14日、ヴァシチコフスキ外相は、ブリュッセルのエリートは英国がEUを離脱するという決断が大打撃であったこと及び変化が必要なことをやっとなんと述べ、また、EUの改革に関してはポーランドの立場が明確であり、欧州理事会及び加盟国の国家議会の権限を広げ、欧州委員会の役割を制限する必要がある、欧州委員会は政治的な機関ではなく、条約の履行を管理する専門機関であるべき。また、なるべく小さい単位で物事を解決すべきという補完性の原理をより遵守すべきである旨発言した。

ブワシュチャク内務・行政大臣、EU内務大臣会合出席【14日】

14日、ブワシュチャク内務・行政大臣はEU加盟国の内務大臣会合に出席し、リビアとの協力を強化し、移民の流入を制限しようとするイタリアのように、EU加盟国による移民問題の見方が明確に冷静になってきている、ポーランドは右の様な活動を支持しており、移民危機の解決には国境の管理が必要と確信している、欧州委員会の自動的再移転の計画は間違っており、ポーランドの見方が常識的で、最終的にEU内で優勢を占める旨述べた。

国防省、米国機甲旅団の第2次隊がポーランドに到着と発表【14日】

14日、国防省は、米国第1歩兵師団内第2機甲旅団の87両のM1A2戦車、103両のブラッドレイ装甲車、18門の155ミリ自走りゅう弾砲等1087の装備がグダンスク港に到着し、米国機甲旅団は、約3,500人で構成される予定であると発表した。

輸送中に米軍装備、盗難【14日】

14日、プロツワフ地方検察官は、ザガンにおいて、米軍の輸送コンテナから20万ズロチ相当の暗視眼鏡等の装備が盗難され、現在捜査中である旨発表した。また、武器等の盗難はなかったと説明した。

マチェレヴィチ国防大臣、フランスとの防衛協力について発言【14日】

14日、マチェレヴィチ国防大臣は、パーリー仏・国防大臣との会談後、ポーランド軍の調達予定の潜水艦に関し、フランスの提案は潜水艦と巡航ミサイルの2つの条件を満たし、仏・ポーランド合同企業を設置し、巡航ミサイル技術をポーランドに移転し有力である旨述べた。また、同大臣は、フランス軍がエルブロングの北東多国籍師団司令部に将校を派遣する可能性についても言及した。

マチェレヴィチ国防大臣等のザーパド演習に関する発言【14日】

14日から開始されたロシア・ベラルーシの合同演習ザーパド17に関し、マチェレヴィチ国防大臣は、不透明な大規模演習は、地域の安全保障に脅威であると述べた。

また、ドヴォルチク国防副大臣は、国防委員会において、ロシアは、ザーパド13演習の直後にウクライナに侵攻したように、政治目標を実現するために

演習を活用することがある。ロシアは防衛演習と宣言しているが、実際の行動からはそうは判断できないため、ポーランド及びNATOは国境の東側を注視し、あらゆる状況を想定して準備していると述べた。

ポーランド・独首脳会談【15日】

15日、ドゥダ大統領は、マルタの首都ヴァレッタにて開催予定のアライオロス首脳会合に先立ち、シュタインマイヤー独大統領と会談を行い、ドイツによる戦後賠償をめぐる議論の政治的かつ法的な意見交換を行い、冷静な議論が必要であり、戦後賠償の議論の行方に関わらず、二国間関係の成果が維持できるように力を尽くす方針で一致したと述べた。また、同大統領は、ドイツ総選挙を背景にした欧州の将来について、行き詰まりを乗り越え、前向きな解決策を見つけ出せるよう、欧州諸国への動機づけが必要であると共に、BREXITを背景に、EU内での不要な緊張を避け、EUの結末及び効率性を再確認する必要があると合意した旨述べた。

国防予算案等が下院を通過【15日】

15日、国防省は、2020年に対GDP比2.1%へ、2030年に対GDP比2.5%に増額する国防予算案及びポーランド軍の兵員数を現在の10万人から20万人(13万人が常備兵)に増員する法案が下院を通過したと発表した。

スラフスキ参謀総長、NATO参謀総長会議に参加【15~17日】

15~17日、参謀総長スラフスキ中将は、アルバニアにて開催されたNATO参謀総長会議に参加し、アフガニスタンの情勢及び増派並びにコソボ情勢について意見交換を行った。

ヴァシチコフスキ外相、民主主義共同体閣僚級会合出席【16日】

16日、ヴァシチコフスキ外相は、ワシントンにおいて開催された民主主義共同体の閣僚級会合に出席し、9月1日を持って終了した米国の2年間の議長国任期について、民主主義共同体を活性化したと高く評価し、北朝鮮、ベネズエラ及びロシアの情勢を含めて、世界中で民主主義を脅かす状況が醸成される中、民主主義を維持するための国家の役割は非常に大きく、民主主義共同体の加盟国は、コミットを再確認し、民主的な価値観の促進に向けて協力を強化し、世界中に見られる反民主主義の傾向を反転しなければならぬ旨演説を行った。

ロシア輸送機、リトアニア領空を侵犯【16日】

リトアニア外務省は、16日深夜、ロシア軍の2機のIL-76輸送機が、カリーニングラード州に飛行する際、リトアニア領空を2分間侵犯し、18日、ウダル

ツォフ駐リトアニア・ロシア大使に対し嚴重抗議するとともに、原因の説明と再発防止を要請したと公表した。

第二次大戦時の賠償請求権に関する独外相発言及びカチンスキ「法と正義」(PiS)党首の反応【17日】

17日付独新聞「デア・シュピーゲル」によると、ガブリエル独外相は、ポーランドによる賠償要求について、二国間の緊密且つ良好な関係を悪化させる試みであると述べ、現在のドイツとポーランドの二国間関係は史上最良であり、良好な関係の継続を希望する旨強調した。それに対し、カチンスキ党首は、独政府が賠償を支払うことは単なる正義であり、ガブリエル外相の発言は正義から逃げている、独政府が支払いを拒めば、長い闘いにはなるが、我々の勝利を希望する旨述べた。

ロシア戦闘ヘリ、訓練中に誤射し、民間人重傷【17日】

17日、ロシアインターファクス通信は、ロシア軍Ka-52戦闘ヘリが、ザーパド演習中、誤射により、ジャーナリスト2名を負傷させた。2名は病院に搬送された旨報じられた。

ポーランド・エストニア首相会談【18日】

18日、シドゥウオ首相は、ラタス・エストニア首相と会談し、二国間関係、ロシアとベラルーシの軍事演習、サイバーセキュリティー、東方の情勢を含めた安全保障、地域協力及び派遣労働者に関して意見交換し、派遣労働者の問題については、ポーランドの立場をラタス首相に説明し、ポーランドは現在の改定案を承諾することが困難であり、妥協に向けた対話を期待していると述べた。

ヴォイチホフスキ作戦司令官、イラク訪問【18日】

18日、統合作戦司令官ヴォイチホフスキ少将及びミルスキ・ポーランド国営防衛産業グループ副社長は、イラクを訪問し、イラク国防軍参謀総長アルガーニニ大將等と会合を行い、旧ソ連兵器のT-72戦車、装甲歩兵戦闘車及び人員輸送車の改修への技術協力、イラク派遣部隊の増員及び期間延長等を意見交換した。

ドゥダ大統領の国連総会での演説【19日】

19日、ドゥダ大統領は第72回国連総会において演説を行い、持続可能な開発のための2030アジェンダに触れ、ポーランド政府は全国民に利益をもたらすために政策を実施している旨を述べると共に、国外、特にウクライナ及びシリアへの人道支援を増額している旨言及した。また、同大統領は、安保理非常任理事国選挙時の支持に対する感謝を述べつつ、同任期中に紛争を早期に防ぐこと等へのポーラ

ンド政府のコミットメントを表明した。

ポーランド・ウクライナ首脳会合【19日】

19日、ドゥダ大統領は訪問中のニューヨークにて、ポロシェンコ・ウクライナ大統領と会談を行い、二国間関係、国連平和維持軍派遣に係るドンバス情勢及びノルドストリーム2への反対する両国の同一の立場について意見交換を行った他、本12月に予定されているドゥダ大統領のウクライナ訪問についても言及した。

ポーランド・リトアニア首脳会談【19日】

19日、ドゥダ大統領は出席中の第72回国連総会にて、グリボウスカITE・リトアニア大統領と会談を行い、ザーパド演習に関連したロシアの地域政策について意見交換し、NATO首脳会合で合意された両国の安全保障強化に向けての取組、エネルギー及びインフラ計画についても言及した。

欧州投資銀行の難民問題に係る支援策への資金供与表明【19日】

19日、財務省は欧州投資銀行が先導しているEU圏外で難民危機に直面する地域(中東及びバルカン地域)への経済支援計画へ5,000万ユーロの拠出

を発表した。同計画にはイタリア、スロバキア、スロベニア及びルクセンブルグも支援を表明している。また、同日、シドゥウオ首相は、NGOを通じたシリア難民支援等の人道支援計画の拡大について言及した。

輸送中の米軍車両、損傷【19日】

19日、グダンスクからザガンへ米軍車両を輸送中の貨物列車がトルン近郊の駅で駅施設に接触し、10両の米軍戦闘車両が損壊した。

シドゥウオ首相、ブルガリア訪問【19—21日】

20日、シドゥウオ首相はブルガリア訪問において、ボリスフ・ブルガリア首相と会談し、二国間関係及びEU改革等に関し意見交換を行い、ブルガリアのEUの国境管理への貢献に感謝し、同国のシェンゲン圏加盟支持を述べた。

マチェレヴィチ国防大臣、米国防長官と会談【21日】

21日、マチェレヴィチ国防大臣は、米国を訪問し、マティス米国防長官と会談を行い、アフガニスタンへの増員、パトリオットミサイル調達について協議を行った。

治 安 等

ポーランド政府警護局職員の制服及び本部アクセスカード鍵の盗難事案【13日】

13日、ポーランド政府要人警護局(BOR)職員の制服及び同局本部のアクセスカード鍵が同局職員の車ごと盗難される事案が発生した。車両は、12日夜から13日朝にかけて、ワルシャワ南東部ワウエルの職員宅から盗難されたとされる。BORは、本件について、本部のアクセスカード鍵が盗難されたことは事実であるが、当該鍵には既に利用停止措置が執られた、盗難された鍵に警護対象施設への出入り権限は付与されておらず警護活動への影響はない旨声明を発出した。

2017年1月から8月までの交通安全関連統計【14日】

14日、国家警察本部は、2017年1月から8月までの交通事故統計を発表した。同統計によれば、交通事故件数は前年同期比6.1%減、交通事故死者数は同比10.6%減、交通事故負傷者数は同比6.6%減となった。交通事故の原因は、割り込み等の強引な運転が最も多く、次いで悪天候時等のスピードの出し過ぎとなっている。また、国家警察は飲酒運転の取締りにも力を入れており、今年1月から8月までに実施された運転手に対する飲酒運転検査件数は、前年比約20万件増の1,200万件となった。

国境警備隊、バングラデシュ等からの不法移民を拘束【14日】

14日、国境警備隊は、ポドカルパツキエ県レスキ郡でバングラデシュからの不法移民8人、ウクライナからの不法移民3人を拘束した。不法入国者は2台の車に分乗し、貨物の中に潜伏するなどして不法入国を試みていた。不法入国者は外国人センター等に一時的に拘留されており、裁判所の決定が下り次第、強制送還される見込みである。

国境警備隊、ウクライナ国境警備隊との連携強化を確認【15日】

15日、ポーランド国境警備隊全権担当者は、ポドカルパツキエ県クラシチュンでウクライナ国境警備隊のカウンターパートと会合を実施した。今時会合は、2015年1月から行われているEU加盟国と第三国の間における不法入国者の身元確認に関する連携強化プロジェクトに基づき実施されたもので、ポーランドとウクライナの国境警備隊は、半年前から国境警備を共同で実施している。会合で、両国は不法移民の流入阻止及び犯罪抑止の面で共同警備が有効であることを確認し、国境警備上の脅威に関する意見交換を継続することで合意した。

国境警備隊、パキスタン人不法移民を拘束【18日】

18日、国境警備隊は、ワルシャワ・モドリニ空港で、偽造パキスタン旅券及び偽造ギリシア在留許可証を使って不法入国を試みたパキスタン人を拘束した。同人は、ギリシアのテッサロニキから航空機でポーランド入りしており、入国審査時に偽造書類の使用が判明した。容疑者はマゾヴィエツキエ県の外国人センターに3か月拘留後、強制送還される。

急増するアジア系外国人労働者に対するポーランド人の意識【18日】

18日、ジェンニク・ガゼタ・プラブナ紙は、従来ポーランドの外国人労働力の主力となっていたウクライナ人労働者の西欧諸国への流出等に伴い、国内で就労するアジア系外国人労働者が急増している旨報じた。同紙は、労働者の国籍は、ネパール、インド、バングラデシュが多く、アジア系へのシフトは今後も続く見込みとしている。他方、ポーランド人は、西欧諸国に出稼ぎに出たポーランド人を呼び戻すことが労働力不足を解消する最良の選択肢と考えており、アジア系外国人労働者に対しては14パーセント、中東系外国人労働者に対しては8パーセントのポーラ

ンド人のみが好意的な評価を下している。

国境警備隊マケドニア派遣隊が帰国【18日】

18日、本年8月15日からマケドニアに派遣されていた国境警備隊第8次マケドニア派遣隊が帰国した。同部隊は、マケドニアで同国警察を支援し、マケドニア・ギリシア国境地域のパトロール任務等に従事していたもので、派遣期間中、30人のポーランド国境警備隊員が、シリア、パキスタン、インド、バングラデシュからの不法移民123人を拘束した。

正当防衛権の適応範囲拡大に関する法改正案【19日】

19日、ジョブロ法務大臣は、閣議で、正当防衛権の適応範囲を拡大する法改正案を提示した。同大臣は、今時改正は正当防衛権の適応範囲をアングロサクソン型法体系に近づけることを目的としており、自宅など平穏が保障される場所が害された場合には、攻撃側に深刻な結果が生じたとしても、政府は防衛者側に立ち、防衛側の行為を罰しないとしている。

経 済

経済政策

中央空港建設予定地の発表【14日～20日】

シドゥウォ首相は18日(火曜日)の閣議終了後、政府が中央空港建設にかかる政府委員の報告書を採用したことを発表するとともに、翌週同空港の建設予定地や投資計画の詳細を定める決議案を審議する予定である旨述べた。ヴィルド同事業担当政府委員によれば、中央空港建設予定地としてワルシャワから南西部40kmに位置するバラノフのスタニスワブフが提案されている。シドゥウォ首相の発表以前から複数のメディアが中央空港建設計画について累次にわたり報じており、モラヴィエツキ副首相によれば、同事業は300億ズロチ(70.5億ユーロ)以上の投資が必要と見積もられ、年間5,000万人の利用を見込んでいる。また、アダムチク・インフラ・建設大臣は、航空フォーラムの開会式において、同空港と併せた高速鉄道の建設計画に言及し、重要な輸送ハブになるとの見解を示した。現在、ワルシャワ・ショパン国際空港がポーランドの航空旅客輸送の38%を担っており、2016年には1,280万人が同空港を利用し、2017年は1,400万人の利用が見込まれているが、キャパシティ不足が課題となっている。

EU、ポーランドの鉄道網整備に9,750万ユーロを投資【14日】

コリーナ・クレッツ地域政策担当欧州委員は、EUがポズナンーピワ間の南北鉄道網の近代化に9,750万ユーロの投資を行うことを発表した。2020年までの完成を目指しており、現在2時間かかっている所要時間を50分短縮できる。

ポーランド初のハイブリッド式鉄道車両の製造に合意【20日】

ポルスキ・タボル・シノヴィ社(車両販売・リース会社)、プシャヴォゼ・レギオナレナ社(鉄道事業者)、及びセギエルスキ社(鉄道製造メーカー)は、ディーゼルと電気の両方で稼働するハイブリッド式鉄道車両(「PLUS」)の製造に関する基本合意に署名した。同事業の予算規模は3,000万ズロチ(701万ユーロ)と見積もられ、2019年の完成を目指す。エミレヴィッチ開発副大臣は、同事業は「責任ある開発のための戦略」の旗艦事業であり、国内市場の需要を満たすだけでなく、輸出製品にもなり得ると述べた。

マクロ経済動向・統計

EU基金等を活用した国内投資の状況【16日】

クヴィエチンスキ開発副大臣は、報道陣に対し、

EU基金等を活用した投資が2,000億ズロチ(470億ユーロ)以上に達したと述べた。2,000億ズロチには、EUからの1,300億ズロチの補助金のほか、ポーランド政府、投資家、企業、地方政府からの投資が含まれる。これらの投資に関し22,000以上の事業が実施中であり、そのうち5分の1(40億ズロチ相当)が既に完了している。クヴィエチンスキ開発副大臣は、これらの投資がポーランドの経済成長に好影響を与えており、第3四半期の投資成長率は3~4%、第4四半期には6%に達する見通しであると述べた。

8月の鉱工業生産、8.8%増加【20日】

中央統計局(GUS)によれば、8月の鉱工業生産は前年同月比8.8%増となった。鉱業は5.6%減となったが、建設業及び組立産業は23.5%増となり、EU基金に支えられたインフラ投資の伸び

を示している。

ポーランド、財政黒字を維持【21日】

財務省によると、2017年8月までの歳入は2,350億ズロチ(550億ユーロ)、歳出は2,301億ズロチ(538億ユーロ)となり、49億ズロチの財政黒字を維持している。

家計収支の年平均額が増加【21日】

中央統計局(GUS)によれば、2016年の月平均の1人当たり可処分所得は前年比7%増の1,475ズロチ、月平均の1人当たり家計支出は前年比4.3%増の1,132ズロチとなった。昨年4月に導入された児童手当「ファミリープラス500」の受給者については、可処分所得の16.8%を同児童手当が占めている。

ポーランド産業動向

モラヴィエツキ副首相、ポーランドが中所得国の罠に陥る危険性について発言【15日】

14日、モラヴィエツキ副首相兼開発大臣は、下院で、ポーランド経済が中所得国の罠に陥る危険性があり、リスクの回避・管理について分析すると

述べた。中所得国の罠は、賃金水準の向上等に伴い発生する経済成長における基礎的・根本的な問題である。シドゥウォ首相は、政権交代から2年間で賃金上昇を年5%上昇させると公言していた。

エネルギー・環境

ガスシステム、ポーランド南部のガスパイプラインを拡張【15日】

国営企業ガスシステムは、7,300万ズロチの補助金を受け、ドルノシロンスキエ県に33キロメートルのガスパイプライン(タシヨフ~キエウチョフ間)の建設を予定している。同パイプラインは、南北ガス回廊及びシフィノウィシチェのLNG基地への接続が予定されている。12日には、タシヨフ~ヴィシユホヴィツァ間のガスパイプラインが開設されている。

チフジェフスキ・エネルギー大臣、原子力の必要性に言及【18日】

チフジェフスキ・エネルギー大臣は、公共放送で、ポーランドはEUが求める気候変動の条件を達成するため原子力開発を進めなければならない、国家目標として、石炭ではなく二酸化炭素が発生しない原子力エネルギーの使用が最良と述べた。

ピオトロフスキ・エネルギー省次官、原発建設に関しIAEA総会で発言【19日】

ピオトロフスキ・エネルギー省次官は、ウィーンで

開催中の第61回 IAEA総会で、ポーランドは気候変動に関する義務を果たし、合理的なコストで安定した電力供給を確保する、国民の過半数が原発建設を支持しており、再生可能エネルギーは安定的なベースロード電源にはなり得ないと述べた。

チフジェフスキ・エネルギー大臣、原子力発電所の技術審査入札時期について言及【19日】

チフジェフスキ・エネルギー大臣は、ポーランドにおける原子力発電所初号機の技術審査入札を2018年頭をめどに実施予定と述べた。ポーランドは2040年までに4.5GW相当の原子力発電所建設を計画している。政府は、資金調達に問題は無いが、原子炉の技術方式の選定は入札で行うとしており、エネルギー省は、600億ズロチ程度を試算している。

大使館からのお知らせ

長期滞在を目的にシェンゲン協定域内国に渡航する際の注意

最近、ドイツ以外のシェンゲン協定域内国に長期滞在を目的と申告した邦人が、経由地であるドイツでシェンゲン協定域内への入国審査を受ける際に入国管理当局から(1)最終滞在予定国の有効な滞在許可証、(2)ドイツ滞在法第4条のカテゴリーD査証(ナショナル・ビザ)、又は(3)同D査証に相当する滞在予定国の長期滞在査証の提示を求められ、これを所持していないために入国を拒否される事例が発生しております。

このため、現地に到着してからの滞在許可証取得を予定し、最初にドイツ入国を予定している場合には、注意が必要です。

ドイツ以外の国では同様の事例は発生しておりませんが、シェンゲン協定域内国での長期滞在を目的に渡航する場合には、滞在国及び経由国の入国審査、滞在許可制度の詳細につき、各国の政府観光局、我が国に存在する各国の大使館等に問い合わせるなどし、事前に確認するようにしてください。詳しくは下記リンク先を御覧ください。

http://www.anzen.mofa.go.jp/c_info/oshirase_schengen_2.html

旅券(パスポート)の管理及び携行義務に関する注意喚起

パスポートの入ったバッグは身体から離さない、目を離さない、バスや地下鉄の車内ではリュック等は身体の前で抱える、といった注意を心がけてください。

万が一パスポートの紛失・盗難に遭った場合は、直ちに現地の警察に赴き、紛失届あるいは被害届を提出するとともに、いずれかの写し又は紛失・被害証明を入手し、日本国大使館又は総領事館の領事窓口まで御連絡ください。多くの国や地域では、外国人はパスポートを常時携行することが法律で義務付けられています。違反すると罰金等を科されることもありますので注意してください。

欧州でのテロ等に対する注意喚起

欧州では、本年に入ってからテロ事件が相次いで発生しており、特にイスラム教のラマダン期間(5月下旬～6月下旬)頃にはテロ事件が続発しました。ラマダン期間は終わりましたが、8月17日(現地時間)にはスペイン・バルセロナ中心部の観光地で多くの人が犠牲となる車両突入テロ事件が発生しており、引き続き更なるテロの発生が懸念されます。

観光客やイベント等を標的とするテロに警戒する必要があることに加え、イベント等の警備のため手薄となった他の都市でのテロの実行も懸念されます。以上を踏まえ、以下のテロ対策をお願いします。

(1) 外務省が発出する海外安全情報及び現地報道等で最新の治安情勢等の関連情報の入手に努めるとともに、日頃から注意を怠らないようにする。

(2) 以下の場所がテロの標的となりやすいことを十分認識する。

観光施設、観光地周辺の道路、記念日・祝祭日等のイベント会場、レストラン、ホテル、ショッピングモール、スーパーマーケット、ナイトクラブ、映画館等人が多く集まる施設、教会・モスク等宗教関係施設、公共交通機関、政府関連施設(特に軍、警察、治安関係施設)等。

(3) 上記(2)の場所を訪れる際には、周囲の状況に注意を払い、不審な人物や状況を察知したら速やかにその場を離れる、できるだけ滞在時間を短くする等の注意に加え、その場の状況に応じた安全確保に十分注意を払う。

(4) 現地当局の指示があればそれに従う。特にテロに遭遇してしまった場合には、警察官等の指示をよく聞き冷静に行動するように努める。

(5) 不測の事態の発生を念頭に、訪問先の出入口や非常口、避難の際の経路、隠れられる場所等についてあらかじめ入念に確認する。

詳しくは下記リンク先を御覧ください。

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

「たびレジ」への登録のお願い

3か月以上海外に滞在する方は在留届の提出を、3か月未満の場合は「たびレジ」への登録を必ず実施してください。渡航先の最新安全情報や、緊急時の大使館又は総領事館からの連絡を受け取ることができます。また、家族や友人、職場等に日程や渡航先での連絡先を伝えておくようにしてください。

下記リンク先から「たびレジ」に登録することができます。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>

パスポートダウンロード申請書の御案内

本年1月4日から、パスポートダウンロード申請が開始されています。日本国外でパスポート申請を行う方は、御自宅などでこれらの申請書をダウンロードし、必要事項を入力・印刷することで、パスポートの申請書が作成できるようになります。詳しくは、下記リンク先を御覧ください。

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/passport/download/top.html>

【お知らせ】大使館広報文化センター開館時間

月曜日 9:00 - 19:00 火曜～金曜日 9:00 - 17:00

当センターでは、日本関連行事や各種展示のほか、マンガコーナーを含む書籍の閲覧、本・CD・DVD等の貸出しを行っています。

イベント情報：<https://www.facebook.com/JapanEmb.Poland>

問合せ先：在ポーランド日本大使館広報文化センター（電話：22-584- 73 00 , E メール：info-cul@wr.mofa.go.jp , 住所：Al. Ujazdowskie 51, Warszawa）

文化行事・大使館関連行事**【開催中】日本の伝統書藝術展【9月19日(火)～29日(金)】**

在ポーランド日本大使館広報文化センターにて、稲垣小燕氏による書道作品が展示中です。入場無料。
開催場所：在ポーランド日本大使館広報文化センター（電話：22 584 73 00 , E メール：info-cul@wr.mofa.go.jp , 住所：Al. Ujazdowskie 51, Warszawa）

【予定】第7回国際ジュニア・子供柔道選手権大会【9月23日(土)～24日(日)】

ウッチ市にて、学生スポーツクラブ「こころ」主催による『第7回国際ジュニア・子供柔道選手権大会』が開催されます。

開催場所：ウッチ県、ウッチ市、ul. Stanisława Małachowskiego 5/7

詳細：<http://www.judolodz.pl/>

【予定】ポトカルパチェ県日本文化フェスティバル【9月23日(土)～24日(日)】

ジェシュフ市にて、KRIS 協会主催による『ポトカルパチェ県日本文化フェスティバル「ロータス」秋2017』が開催されます。日本文化・歴史・ポップカルチャーに関する講演・ワークショップ（武道、着物、日本刀、漫画、アニメ、J-ROCK、コスプレ等）が予定されています。

開催場所：ポトカルパチェ県、ジェシュフ市、ul. Fryderyka Szopena 11（第3高等学校）

詳細：<https://festiwal-lotus.pl/>

【予定】第5回ポーランド空手選手権大会「TATARIA CUP」【9月23日(土)】

ノバ・サジナ市にて、レジャイスク極真空手クラブ主催による『第5回ポーランド空手選手権大会「TATARIA CUP」』が開催されます。

開催場所：ポトカルパチェ県、ノバ・サジナ市、ul. M. Konopnickiej 2

詳細：<http://www.karate.lezajsk.pl/>

【予定】第3回日本ポーランド冷兵器の日【9月30日(土)】

ワルシャワ市にて、ポーランド軍事博物館主催による『第3回日本ポーランド冷兵器の日』が開催されます。武道デモンストレーション（新陰流、相撲、剣道、試し切り）、冷兵器の展示会、歴史再現グループのデモンストレーションや様々なワークショップ・コンクール等が予定されています。

開催場所：ワルシャワ、ポーランド軍事博物館、Aleje Jerozolimskie 3

詳細：<http://www.muzeumwp.pl/>

【予定】国際極真空手選手権大会 ポドラシェ県知事杯【9月30日(土)】

ビャウイストック市にて、ビャウイストック空手極真クラブ「カンク」主催による『国際極真空手選手権大会 ポドラシェ県知事杯』が開催されます。

開催場所:ポドラシェ県, ビャウイストック市, ul. Ks. Suchowolca 26

詳細: <http://kyokushin.bialystok.pl/>

【予定】 国交回復 60 周年記念日本・ポーランド交流史パネル展【10月5日(木)～20日(金)】

在ポーランド日本大使館広報文化センターにおいて、戦後の日本とポーランドにおける外交・文化・経済関係の歩みを紹介する写真パネル展を開催予定です。入場無料。

開催場所: 在ポーランド日本大使館広報文化センター(電話: 22 584 73 00 , E メール: info-cul@wr.mofa.go.jp, 住所: Al. Ujazdowskie 51, Warszawa) (* 平日の開館時間内)

【予定】 第12回日本文化デー【10月6日(金)～7日(土)】

ノヴァ・ルダ市にて、ノヴァ・ルダ市文化センター主催による『第12回日本文化デー』が開催されます。様々な展示会(着物, 扇子), 京都の写真展, ワークショップ(着付け, 折り紙, 書道)や日本映画の上映会などが予定されています。

開催場所: ドルヌィ・シロンスク県, ノヴァ・ルダ市, ul. Strzelecka 2A

詳細: <http://www.mok.nowaruda.pl/>

【予定】 第14回国際バイオフィリアリハビリテーション学会【10月6日(金)～7日(土)】

ウストロン市にて、特定非営利活動法人高齢市民が活躍するための社会技術研究会主催による『第14回国際バイオフィリアリハビリテーション学会』が開催されます。

開催場所: シロンスク県, ウストロン市, ul. Sanatoryjna 1

詳細: <http://ibrc2017.pl/>

【予定】 弓道大会 ポズナン2017【10月7日(土)～8日(日)】

ポズナン市にて、日本伝統武道センター協会「テングカイ」主催による『弓道大会 ポズナン2017』が開催されます。

開催場所: ヴィエルコポルスカ県, ポズナン市, ul. Garbary 24

詳細: <http://tengukai.pl/>

【予定】 柔道家橋本壮市による柔道セミナー【10月7日(土)～8日(日)】

ワルシャワ市にて、柔道クラブ レギア・ワルシャワ主催による『柔道家橋本壮市による柔道セミナー』が開催されます。

開催場所: ワルシャワ市, ul. Lokajskiego 3

詳細: <https://judo.legia.com/seminarium-mistrzem-swiata-soichi-hashimoto/>

【予定】 欧州極真空手選手権大会【10月14日(土)～15日(日)】

ジェシュフ市にて、レジャイスク極真空手クラブ主催による『世界極真武道会(WKB)による欧州極真空手選手権大会』が開催されます。

開催場所: ジェシュフ市, ul. Miłocińska 42

詳細: <http://www.karate.lezajsk.pl/>

【予定】 国際会議「ポップリアリティー: 日本人の目を通して見た日本、世界の目を通して見た日本」【10月16日(月)～17日(火)】

クラクフ市にて、ヤギェロン大学中東極東研究所日本語日本文化政治部主催による国際会議『ポップリアリティー: 日本人の目を通して見た日本、世界の目を通して見た日本』が開催されます。様々な講演が予定されています。

開催場所: クラクフ市, ヤギェロン大学図書館, ul. Mickiewicza 22

詳細:

<http://unikonferencje.pl/konferencja/7971-pop-reality-japan-through-the-eyes-of-japanese-japan-through-the-eyes-of-the-world>

【予定】 欧州相撲選手権大会(ユース: U14~U18)【10月20日(金)~22日(日)】

ワルシャワ市にて、ポーランド相撲連盟主催による『欧州相撲選手権大会 (ユース: U14~U18)』が開催されます。

開催場所: ワルシャワ市, ul. Poezji 5

詳細: <http://www.sumo.org.pl>

本資料は、ポーランドの政治・社会情勢を中心に、各種報道をとりまとめたものです。

報道をベースにしておりますので、記載事項の信頼性については責任を負いかねます。

記載事項は在ポーランド日本国大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。

皆様からの情報提供をお待ちしています

大使館では、読者の皆様に幅広くポーランドの情報をお伝えするため、皆様からの情報をお待ちしています。社会・生活情報やおすすめのイベント、困ったことなど、皆様に伝えたいと思われる情報があれば、下記のアドレスまで御連絡ください。(営利目的など、内容によっては対応できかねる場合もありますので御了承ください。)

【お問い合わせ・配信登録】

本資料は、ポーランドに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。「新たに配信を受けたい」、「送付先Eメールアドレスを変更したい」、「配信を停止したい」等の依頼につきましては、下記のEメールアドレスまで御連絡ください。

大使館ウェブサイト(http://www.pl.emb-japan.go.jp/index_j.htm)も併せて御覧ください。

本資料に関する問い合わせ E メールアドレス (newsmail@wr.mofa.go.jp)